

シリーズ多面的機能支払 熊野・御浜・紀宝

～私たちの思い、そして伝える100年先へ～

ひらおいかんきょうかつどうそしき

Vol.11 平尾井環境活動組織(紀宝町平尾井)の軌跡



心ひとつに

平尾井の大地を豊かに



会長
たいら
平 基実さん

—美しい里山を守り、次の世代へとつないでいく—
多面的機能支払交付金を活用し、故郷の暮らしを守る活動組織の多様な取り組みは、100年先の地域での暮らしへとつなげるための足跡となっている。
本誌では、活動組織の地域に対する思い、今後の展望についてインタビューし、シリーズ企画として皆様にお伝えしている。
今回は、地域の様々な方と協力しながら田園風景の維持に取り組む「平尾井環境活動組織」を紹介する。

紀宝町中心部から相野谷川沿いに20分ほど車を走らせると、平尾井地区の綺麗に手入れされた田が一面に広がっている。地区内には11世紀に建てられた「平尾井薬師」があり、地域外から多くの人が訪れる。



【平尾井薬師の参道】

この地区では、温暖な気候を活かした早場米を栽培しており、8月までには稲刈りが終わる。取材をした日は9月で、まだまだ暑い日が続くなかでも、山々の間から心地よい風が稲の2番穂をゆらしていた。

この地区で活動をしている平尾井環境活動組織 代表の平さんにお話を伺った。

—平尾井地区は山々に囲まれ、とても綺麗な景色ですね。

平—昔は、現在の何倍もの田んぼがあり、今、目の前にある山々は全て、熊野市の丸山千

—組織について教えてください。

平—今年で設立して8年目で、メンバーは約20人います。構

成員には、自治会や老人会も入ってもらい、地区で一体となり活動をしています。

私自身は、昔は兼業農家をしていました。「3ちゃん農業(じいちゃん、ばあちゃん、かあちゃん)」と言って、農家の働き手である男性が平日は会社に勤め、老年男女と主婦で農業を営み、休日は農業を手伝っていました。

所持している田んぼは、先祖から代々残されてきた田んぼであり、自分の食べるものは自分でという考えで農業をしてきました。

私の息子は、今でも毎年お盆前には帰ってきて、積極的に手伝ってくれるので、とても助かっています。息子にも、先祖代々守ってきた田んぼの大切さが伝わっていると思っています。

—活動を始めたきっかけは。

平—この地区は、オシドリ池というため池から農業用水を取水しています。その池が工事により整備されたのですが、堤の草刈りは継続して必要となりました。

そこで、多面的機能支払交付金を活用し、堤の草刈り等を継続していかうと地域のみんなで合意し、活動をし始めたのがきっかけです。



【インタビューの様子】

また、この地区は畦畔が多いことに加えて、相野谷川沿いに長く堤防があります。距離は5キロほどあるため、草刈りをする時間は大変かかりますが、年に2、3回地元みんなで取り組むことで、景観を維持しています。

—ほとんどの農地に柵が張られています。獣害はどうですか。

平—獣害柵を設置するまでは被害がひどく、イノシシやシカ、サルに入られ、大変でした。

しかし、獣害柵を設置してからは、シカやイノシシの被害はほとんど無いです。被害が無くなると、農業をすることがより楽しくなりました。

多面の活動では、獣害柵の維持管理として、柵の点検や柵下の除草作業に力を入れています。

—多面を活用していてよかったことはありますか。

平—地域みんなで協力しながら、作業ができるのでありがたく思います。共同活動ですので、個人で行うよりも効率もよく広域的に作業ができています。

個人での作業には限界があり、多面で活動をしていなければ、耕作放棄地は今よりも増えていたと感じます。

また、景観形成の活動では、地区の中心に位置する相野谷川沿いに花が咲くように種をまいているので、地区全体も華やかになり、地元の方からも好評です。残念ながら昨年度は、暑さのせいか花が咲かず悲しい結果となりました。

—今後について、思いをお聞かせください。

平—今の耕作しているところを、これからも荒らさず維持し続けていきたいと強く思います。

また、昨年度は悲しい結果となった景観形成の活動についても、今年度再挑戦したいと思います。

これからも地域が一体となり、平尾井という地域を守っていきます。



【活動の様子】



■取材を終えて

生まれ育った地元のために、今できる最大限のことを全力ですという熱い思いのもと活動をしていると感じた。

また、自治会や老人会等の農業をしていない地元の方も巻き込み活動することは大変難しいことだが、地元に対する思いはみんな同じということから一緒に活動ができていると感じた。

紀宝町指定文化財の「平尾井踊り」を守り続けることや、昔からの田園風景を維持していくことは、地元に対する思いがあることで成り立つと感じる。平さんの笑顔が平尾井の未来を明るく照らしてくれた。

組織名	組織設立年	活動面積	活動メニュー
平尾井環境活動組織	平成29年	約8ha(田)	農地維持支払 資源向上支払(共同)

取材:三重県熊野農林事務所 山口、西崎、橋本 御浜町役場 大谷
紀宝町役場 清水(令和6年9月)
問い合わせ先:熊野農林事務所 農村基盤室 農村計画課(0597-89-6128)

